

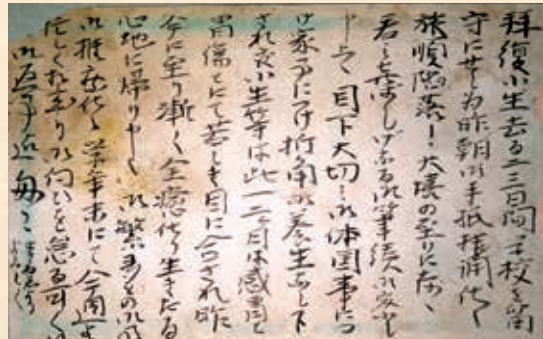
田舎教師の手紙

行田市郷土博物館所有

田山花袋の『田舎教師』は夢と現実の狭間で苦悩する青年小学校教師林清三を主人公とした、自然主義文学の名作です。主人公のモデルとなったのは、小林秀三という実在の人物です。埼玉県第二尋常中学校（現埼玉県立熊谷高校）に通っていた小林は、家族とともに明治33年（1900）に熊谷町から忍町に転居してきました。同34年3月に学校を卒業し、4月から弥勒高等小学校の代用教員となりました。その後、羽生町の建福寺や小学校の宿直室で生活しましたが、体調を崩し、37年9月に死去しました。花袋は小林が書き残した自筆日記をもとに、実地調査を行い、明治42年に『田舎教師』を発表しました。

今回紹介する資料は、小林秀三自筆の手紙です。全部で5通あり、宛名はいずれも友人の北村量に宛てたものです。北村は小林の第二尋常中学校在学中からの友人で、『田舎教師』に登場する「北川」のモデルとなった

人物です。小林の日記の中にもたびたび登場し、北村宅で妹の美代子らとかるた取りをして遊んだことなどが記されています。手紙は小林の所在地や内容、消印などから明治36年12月から37年3月にかけて書かれたものと思われま。12月の手紙では北村の出發に立ち会えなかったことへのお詫びや、今後連絡が欲しいことなどが記されています。1月の手紙2通では、騎兵第一連隊に入隊した北村が体調を崩して入院したことへの見舞いや、正月を病院で過ごしたことへの慰め、無事快方に向かい退院したことへのお祝いなどが述べられています。



小林秀三の手紙（明治37年3月15日）

3月の手紙2通では、小林自身もここ1、2カ月は感冒と胃傷に悩まされていたがようやく治癒し、学年末の多忙な時期を過ごしていることや、日露戦争の旅順攻防戦のことが記されています。最後の手紙から半年後に小林は20歳で死去します。これらの手紙は実在した『田舎教師』の実像の一端を知ることができ資料といえるでしょう。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

特定非営利活動法人 ケアフレンドひまわり

障害を持っていても、高齢になっても、住み慣れた地域社会の中で当たり前に暮らせるよう支援を行い、分け隔てのない明るい地域社会作りを目指して活動しているのが特定非営利活動法人ケアフレンドひまわりです。

障害をもつ子供の保護者たちからの外出支援などの要望をきっかけに、障害者を支援するボランティアが中心となり、平成18年に活動を開始しました。

現在は高齢者向けの介護サービスも提供しており、利用登録者数は約200人にまで増加しています。利用者からのさまざまな依頼に応えることで精いっぱい毎日、活動当初に利用者スタッフ全員で日帰り入浴へ行ったのんびりとした時間が懐かしい、と話す代表理事の増田喜代子さん。

そんな忙しい日々の中で、利用者からの「ありがとう」がスタッフの皆さんの心の支えになっているとのこと。これからも、いつも元気で明るい「ひまわり」の活動がたくさんの人々を笑顔にしてくれることでしょう。

【代表理事】 増田 喜代子 【電話】 558-1508

つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～⑫



スタッフによる送迎サービス

今月の表紙

10月28日、県道行田市停車場酒巻線開通記念式典が北進大橋(星川)南側で開催され、行田市長らによるテープカットなどが行われました。

今回開通したのは県道熊谷羽生線から県道上中条斎条線間の約1.1kmで、幅員16m(車道2車線両側歩道)です。今後も市の中心部と北部をつなぐ重要な道路として整備が進められます。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジー版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい 植物油インキ

市報ぎょうだは再生紙を使用しています